

社団日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>石井 康智 いしい やすとも</p>	<p>所属</p>	<p>早稲田大学文学学術院</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>社団法人日本心理学会中医心理学研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 10名 (うち認定心理士 0名) 非会員 1名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>社団法人日本心理学会中医心理学研究会 (以下本会) の目的は、日本心理学会会員を中心として、中医心理学という新たな領域に関する知見を深めるとともに、この心理学領域に関する理論的・実証的な研究を組織的に行い、その成果を広く公表することである。</p> <p>本会の2010年度の活動は、1)研究集会の定期的実施、2)国際中医心理学学会第3回大会 (四川・成都) における研究発表、3)研究成果の学会誌投稿などであった。</p> <p>1) 研究集会は、4月12日、6月7日、7月12日、10月4日、11月1日、12月6日、1月24日、2月28日の8回実施され、その主な内容は、王米渠著『図説中医心理学』の輪読と中国における中医心理学研究の紹介、伝統中国医学と心理学の接点を意識した研究の計画策定、及び研究経過の報告と討議であった。</p> <p>2) 国際中医心理学学会の発表は、春木豊「生活習慣和文化差異」、松永樹浩「中医心理学中应用咨询应考虑的问题」、奈良雅之「颜色喜好对认知机能的影响- 运用 Stroop, 相反 Stroop 课题进行的实验研究」の3題であった。</p> <p>3) 研究成果の学会誌投稿については、奈良の「肩こり感尺度作成の試み」という表題の論文が <i>Health and Behavior Sciences</i> に投稿され、第9巻2号への掲載決定となった。</p> <p>2011年度は今年度同様、定期的研究集会を8回実施するとともに、日本心理学会第75回大会において「中医心理学と心理学—その接点を考える—」というタイトルでワークショップを行う予定である。また、国際中医心理学学会第4回大会 (北京) にて研究会の成果を発表するとともに中国中医心理学研究者との研究交流を予定している。以上</p>		